

「ソフトボール」

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力

単元について

○単元観

球技はゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの状況に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。第1学年及び第2学年では、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防をできるようにする。

ソフトボールでは、身体やバットの操作や走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多く得点を競うゲームである。ボールを捕ったり投げたり、打つ技能習得には多くの時間が必要であるが、プレイ上の制限を工夫したゲームを行うことで個人やチームに応じた作戦を立てゲームを楽しむことができる。

○生徒観

本クラスの生徒は、仲間と声を掛け合いながら授業に取り組むことができる生徒が多い。また、挨拶などの授業規律は定着している。

事前アンケートでは、「体育の授業は好きですか」の問いに対して93%の生徒が「好き」と回答している。また「ソフトボールは好きですか」の問いに対して81%の生徒が「好き」と回答している。しかし、嫌いと回答した生徒で、「投げる動作が苦手」や「ボールを取ることはよいが打つことが苦手」という回答があった。段階的な指導を行い、生徒の「できた」という経験を増やしていく手立てが必要である。

○指導観

指導にあたっては、「勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする」ために「自己の課題に応じた練習を行い教え合い関わり合い活動を行う」という目的で授業を展開していく。基本的な技能の定着に向け、打つときには、ティーバッティング、トスバッティングとつなげ、捕る時には、ボールに対して体の正面に入ることやグローブの出し方をキャッチボールを中心に行うことを図り、用具やルール工夫により、「打つこと」・「捕ること」の喜びを味わわせたい。また、グループ活動を通して、仲間と協力しながら課題解決を目指した活動ができるようにさせたい。

単元を終えた時に、ソフトボールに対して肯定的な捉え方ができて生徒にしていきたい。また、仲間に大きな声で賞賛や励ましの声をしっかりかけることは得意であり、具体的なアドバイスをすることを苦手としている。さまざまな運動の局面でポイントとなる言葉がけを用意し、自信をもってアドバイスができる教材づくりが必要である。

単元の目標

- (1) 基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができるようにする（技能）
- (2) ソフトボールに積極的に取り組むとともにフェアプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦名途について話し合いに参加しようとするなど健康・安全に気を配ることができるようにする（態度）
- (3) ソフトボールの特性や成り立ち、技能の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

単元の評価規準

ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
①ソフトボールの特性やゲームに関心を持ち、仲間と互いに協力しようとしている。 ②チームにおける自分の役割を自覚して、その責任を果たしお互いに協力しながら練習やゲームをしようとする。 ③フェアプレイを守ろうとしている。 ④作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ⑤健康・安全に留意している。	①練習やゲームを通して、自己の課題を明らかにし、その課題の解決を図ろうとしている。 ②資料や学習カードを活用し学習している。 ③ボール操作や定位置での動きなどの技能を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ④仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。	①基本的な技能を身に付け、仲間と協力してゲームを行うことができる。 ②チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して、集団的技能や個人的技能を高めることができる。 ③安定したバット操作と走塁で野攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開することができる。	①ソフトボールの特性や学習の進め方、自己の課題を理解し、練習計画の立て方や自己評価が身についている。 ②ソフトボールのゲームの運営やルール、審判の方法を理解している。 ③試合の行い方について、学習した具体例をあげている。

資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力				評価の観点			
				関	考	技	知
知識							○
スキル	思考力・判断力・表現力	思	①学習したことを使って、自分の考えをまとめる力 ②根拠をもとに、正しい判断をする力 ③よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 ④自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力	○	○		
意欲態度	主体的に学ぶ力	主	①自ら考え、判断し、行動する力		○	○	
価値観倫理観	他者とのかかわる力	他	①他者と協力（協働）して、課題を解決しようとする力 ②他者との関わりを通して自分の考えを深めたり広げたりする力		○	○	○
	社会貢献力	社	①地域のよりよい社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力				
	自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自らの考えや意見を持つ力				

Ⅰ学習内容とⅡ学習活動、Ⅲ単元として育てたい資質・能力のつながり

Ⅰ 球技（ソフトボール）の中で、Ⅱ、グループ学習を取り入れ、他者と協力して自己の課題に応じた運動を行い、Ⅲ自らの考えを持って課題に取り組む。

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
グループ学習を通して ① チームのアドバイスを生かして、自己の課題を達成することができる。 ② 自己の課題やチームの状況に応じた動きを行うことができる。	A	①チームや仲間のアドバイスを生かして、自己の課題を解決しようとしている。 ②試合を通してチームの状況に応じた動きができる。
	B	①チームや仲間のアドバイスを生かして、自己の課題を解決しようとしている。 ②試合を通して自己の課題の動きができる。
	C	①チームや仲間のアドバイスを生かして、繰り返し挑戦する。 ②自己の課題の動きができる。

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法)	
1	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと進め方 何ができるかできないかを把握する 	○				アー① (行動観察) ワークシート エー① (行動観察)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法) ◆【他一②】 (ワークシート)
2	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> チームや個人の課題解決に向けた話し合いの取り組みができる 映像や手本をもとにどのような動きを行うかを考える 	○	○			アー① (行動観察) イー① (行動観察)	◇仲間と協力して課題解決に取り組む 【思一③】 ◆【他一①②】 (行動観察)
3	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習でお互いの技能を見せ合い自分の考えを相手に伝える。 バッティングの段階を追って練習をする。 		○	○		イー② (行動観察) ウー② (行動観察)	◆【思一②③④】 ◆【他一①②】 (行動観察) (ワークシート)
4	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> バッティングの段階を追って練習をする。 キャッチング、スローイングの段階を追って練習をする 		○	○		イー① (行動観察) ウー② (行動観察)	◆【思一②③④】 ◆【他一①②】 (行動観察) (ワークシート)
5	まとめ・創造	<ul style="list-style-type: none"> チームの状況にあった作戦や練習方法に取り組む。 アドバイスをもとにバッティングやスローイングを練習する 		○	○		イー① (行動観察) ウー② (行動観察)	◆【主一①】 (行動観察) ◇仲間同士でアドバイスをしあいながら意欲的に挑戦する。
6	表現	<ul style="list-style-type: none"> チームの状況にあった作戦や練習方法に取り組む チーム内でアドバイスを言い技能向上に向け取り組む 		○	○		イー① (行動観察) ウー② (行動観察)	【自一①②】 (行動観察) (ワークシート)

7	実行	・アウトを取る技能を身に付けよう。 ・自分の能力に応じたボールを打とう			○	○	ウー① (行動観察) エー① (行動観察)	◆【主一①】 ◆【他一①】 (行動観察) (ワークシート)
8		・アウトを取る技能を身に付けよう ・チームで作戦を立て、ゲームを楽しもう			○	○	ウー① (行動観察) エー① (行動観察)	
9		・チームで作戦を立て、ゲームを楽しもう ・チーム内でアドバイスや仲間を賞賛するような意欲的な声掛けを行う。			○	○	ウー② (行動観察) エー② (行動観察)	
10	振り返り	・学習のまとめとして仲間や自己をふりかえりを行う			○	○	ウー② (行動観察) エー② (行動観察) (ワークシート)	【主一①】 (行動観察) 【自一②】 (学習カード)

本時の学習

(1) 本時の目標

- ①打撃においては、地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。
- ②捕球においては、ボールの正面に回りこんで捕ることができる。

(2) 準備物

グローブ、バット、ソフトボール、学習カード

(3) 学習展開 (4限目/10)

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (7分)	1. 集合・整列・準備運動 2. 本時のめあての確認	・学習の計画に見通しをもたせる。	
	【本時のめあて】 自己の課題を理解し、打撃・捕球それぞれにおける課題解決に向けての練習を選択し行うことができる。		
展開 (38分)	3. 準備 4. グループで自己の課題を見つける (J)…じっくり考える) (H)…はっきり表現する)	○打球の高さやバウンドによってグラブの出し方の違いをふまえ、自己の課題の設定を行い、練習の方法を考えている。足の出し方やステップの行い方を掲示しておく。 ○学習カードに課題を選択させ、その理由をしっかりと書かせる。 ●課題が分からない生徒に対して、できないことをあげさせたり、仲間の学習を援助するために声かけやアドバイスを意識させる。	グループの仲間に対して、技術的な課題や練習方法の選択に関して指摘している。 (イー①②) (行動観察) 【思一②③④】

	<p>5. グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで出た課題解決に向けた練習を行う。 ・グループ内でアドバイスをする ・打撃グループと捕球グループに分けて行う。 <p>(打撃)</p> <p>課題①：Tバッティング</p> <p>課題②：トスバッティング (ゆっくり)</p> <p>課題③：トスバッティング (変化をつけて)</p> <p>(捕球)</p> <p>課題①：キャッチボール・グラブの向きを意識した練習(正面, ゴロ, フライ) : 対人</p> <p>課題②：キャッチボール・体の向きを変える動作を含む練習(中継, ダブルプレーを意識したもの) : 3~4人組 など</p> <p>(K)…くり返し挑戦する)</p> <p>6. 片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○バッティングやキャッチング動作を見て仲間と協力しながら積極的に活動しようとする。 ○練習方法をリーダーが考え行う。 ○リーダーを中心とした3人または4人組でアドバイスをしながら自己の課題に沿って練習を行っている。 ○周囲の安全を配慮しながら活動している。 ●課題解決につまずいているグループには助言をもらうことを進め、教師はグループおよび個に応じた指導を行う。 <p>○繰り返し挑戦させ、正確なフォームで行わせる。</p>	<p>チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して、集団的技能や個人的技能を高めることができる。</p> <p>(ウー①②) (行動観察) 【他-①②】</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>7. 本時のまとめ・ふりかえり</p> <p>8. 号令・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに積極的な話し合い活動ができるようにする。 ○個人の課題設定や振り返りができるようにする。 	